

2018年12月期 第2四半期決算説明資料



2018年9月4日
株式会社やまびこ

1. 2018年12月期第2四半期

決算概要 3

2. 2018年12月期

業績見通し 11

添付資料

会社概要など 18

第10期（2017年12月期）は決算期変更により9ヶ月決算※1。
比較参考用として前年同一期間（2017年1月～6月）に調整した数値と比較。

<10期と11期 決算短信等財務報告数値>

	2017年				2018年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
12月決算会社 (海外子会社)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
	第10期				第11期			
3月決算会社 (当社および国内子会社)		1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q	4Q

<前年同一期間と11期 比較参考用数値※2>

	2017年				2018年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
12月決算会社 (海外子会社)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
	前年同一期間				第11期			
3月決算会社 (当社および国内子会社)	2017/3期 4Q	1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q	4Q

※1. 3月決算会社は4-12月の9ヶ月間、12月決算会社は1-12月の12ヶ月間となります。

2. 比較用に前年同一期間に調整した数値は監査法人による監査は受けておらず参考情報となります。

1. 2018年12月期第2四半期 決算概要

主力のOPEは北半球における天候不順の影響を受けて、刈払機を中心にメインである日米欧市場がいずれも振るわなかったものの、国内および北米において農機、産機が伸長したことなどにより、売上高は前年同一期間並み。

《セグメント概況》 略称「OPE」= Outdoor Power Equipment

市場	セグメント	市場概況	当社
国内	小型屋外作業機械 (OPE)	● 刈払機はホームセンターが大きく落ち込んだほか、動力噴霧機も伸び悩んで前年並み。	
	農業用管理機械	● 防除機は微増で維持したものの、トラクタやコンバインが減少して、1-6月の農業機械出荷額が前年比2.6%減（日本農業機械工業会）。	
	一般産業用機械	● 人材不足や設備投資の減少などにより建設機械出荷額は10ヶ月連続減少して、1-6月では前年比10.5%減（日本建設機械工業会）。	
海外	小型屋外作業機械 (OPE)	● 北米市場：5月以降、天候回復により販売に回復が見られたものの、それまでの低温による天候不順の影響が残った。	
		● 中南米市場：政情不安・経済問題が継続しており、回復に足踏み。	
		● 欧州市場：年初の低温、その後の高温や干ばつなど天候不順の影響により低迷。	
	農業用管理機械	● 北米市場：穀物価格は低迷が続く。	

2018年12月期第2四半期 経営成績



(百万円)	前年同一期間 調整後実績 (未監査)	構成比 (%)	18/12期	構成比 (%)	前年同期比 (%)
			2Q実績		
売上高	62,758	100.0	63,125	100.0	+ 0.6
売上原価	44,145	70.3	45,523	72.1	+ 3.1
販管費	13,896	22.1	13,385	21.2	▲ 3.7
営業利益	4,716	7.5	4,216	6.7	▲ 10.6
経常利益	4,682	7.5	3,937	6.2	▲ 15.9
親会社株主に帰属 する四半期純利益	3,364	5.4	2,988	4.7	▲ 11.2

為替レート ※期初の想定為替レートは1ドル110円、1ユーロ130円。

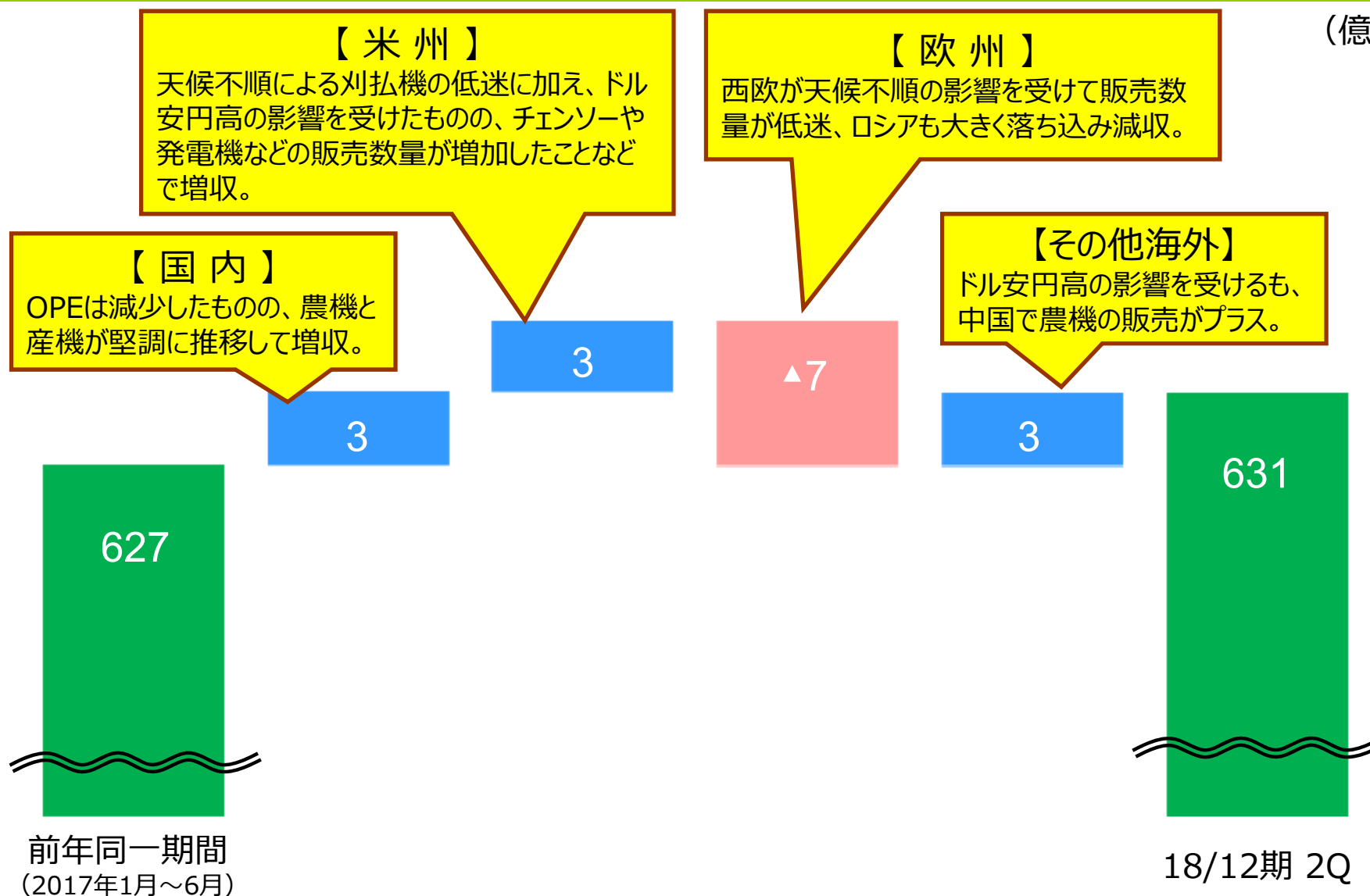
1ドル	当社レート	113 円	109 円	▲ 3.4
	米国子会社 換算レート	112 円	109 円	▲ 3.3
1ユーロ		121 円	132 円	+ 9.2

- ✓ 売上高は、欧州が大きく落ち込んだものの、国内が堅調に推移し、米州も産機が伸長したことなどにより前年同一期間並み。
- ✓ 営業利益は販売数量の増加などによる利益の押し上げはあったものの、主に実質原価率の上昇などにより減益。経常利益は主に為替差損の影響により減益。

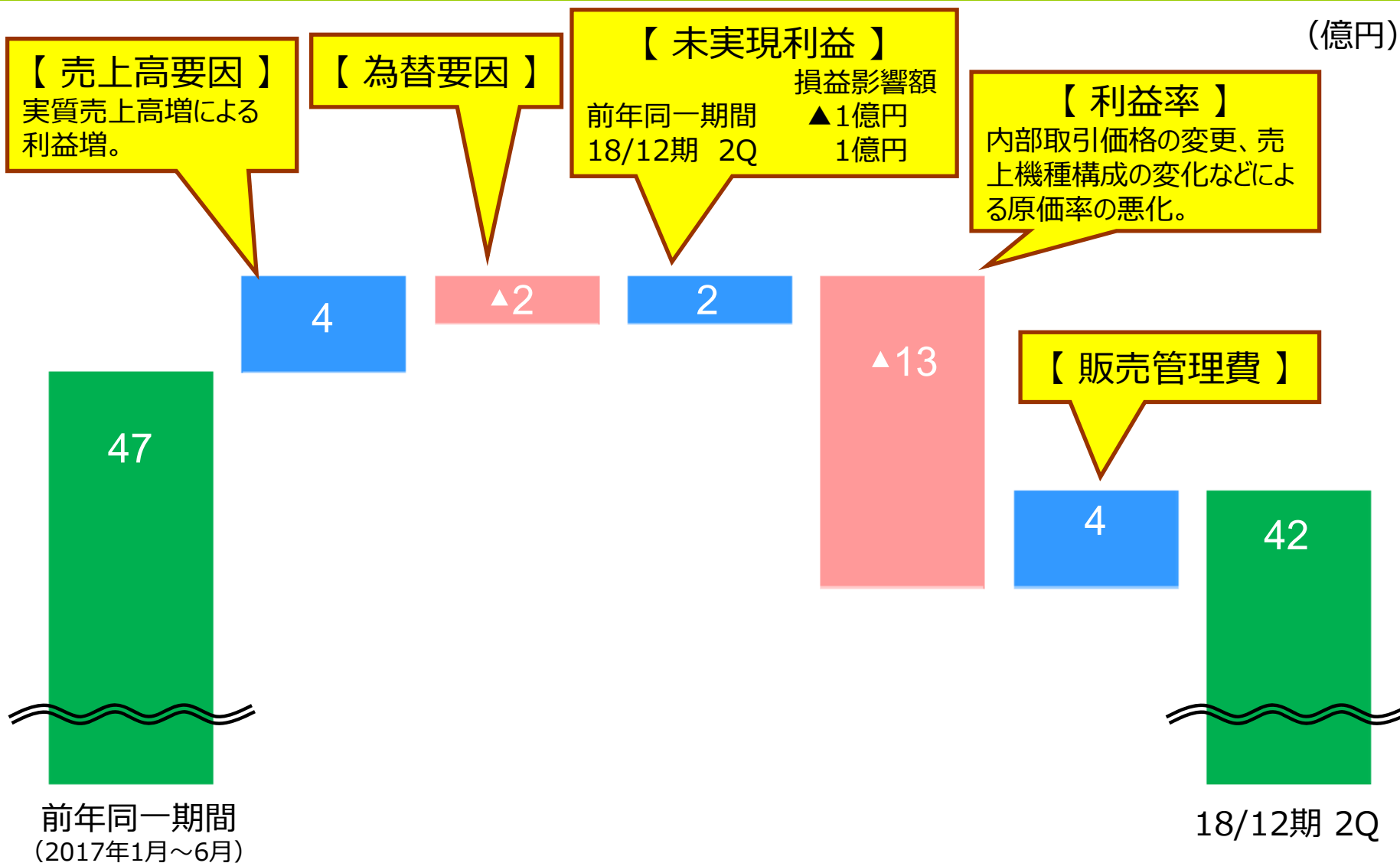
(注) 18/12期より全ての子会社および関連会社を連結の範囲に含めております。なお、この連結範囲の変更による売上高および損益への影響は軽微です。

連結売上高の増減

(億円)



連結営業利益の増減



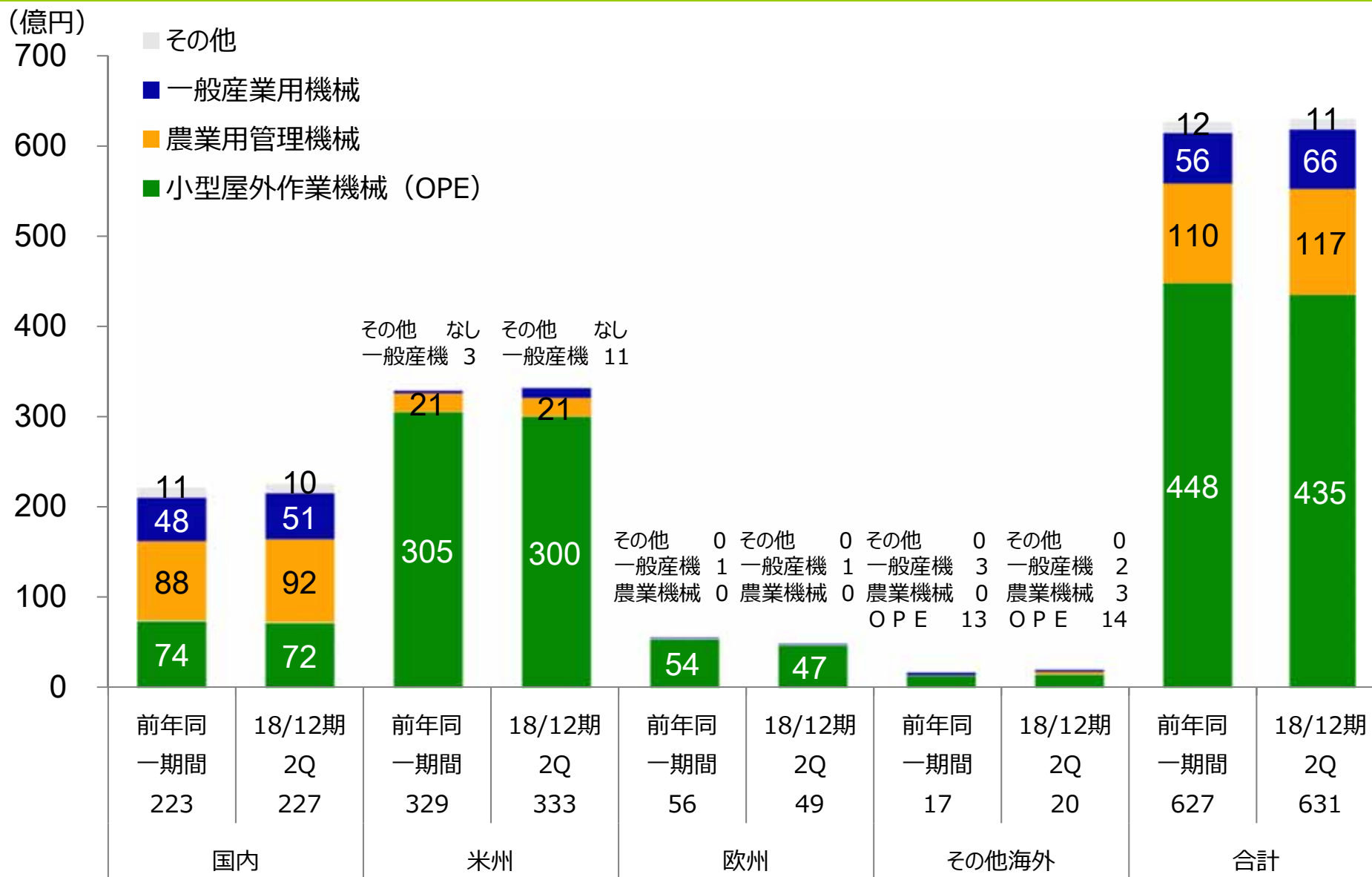
セグメント別経営成績



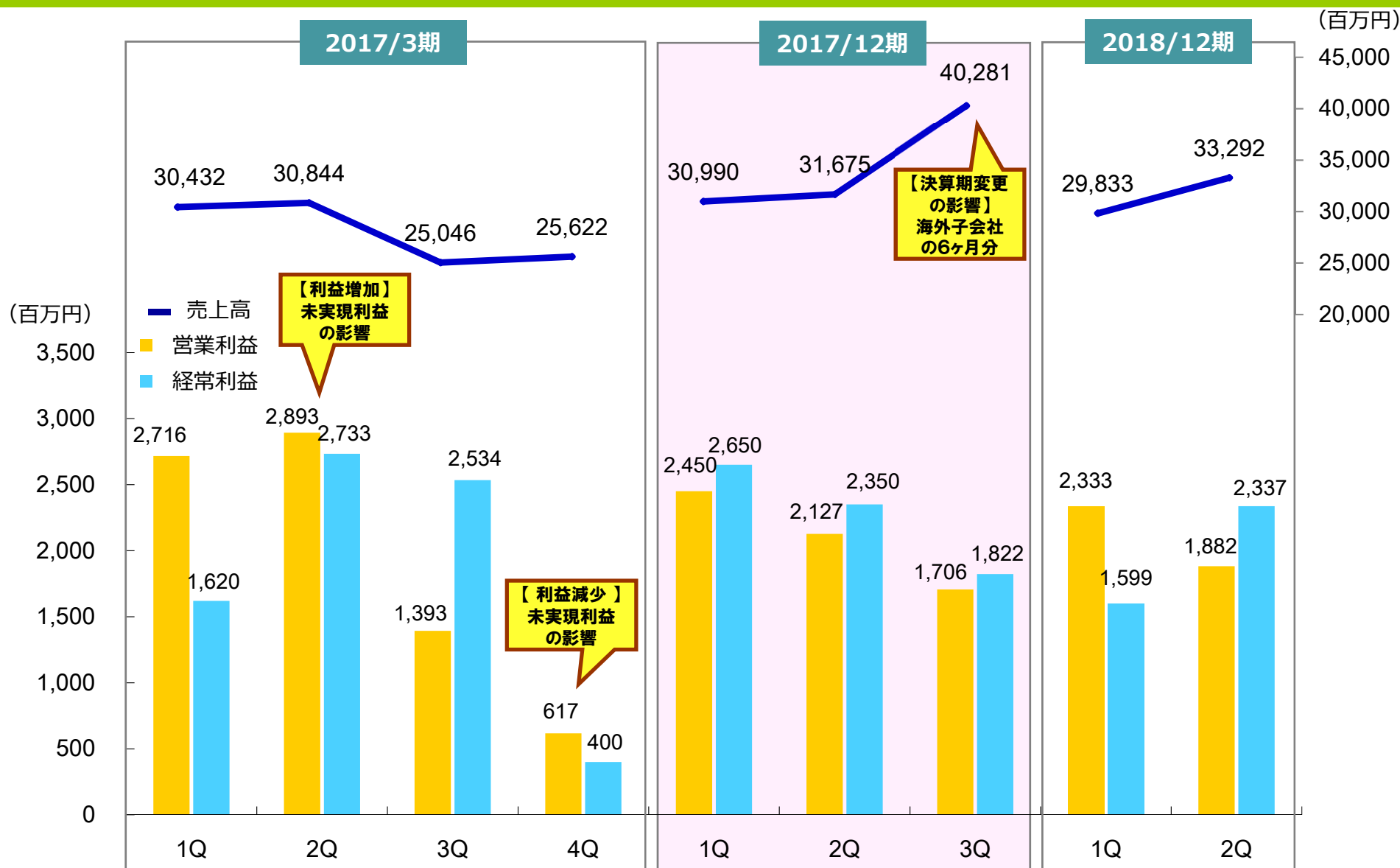
(百万円)	前年同一期間 調整後実績 (未監査)		18/12期 2Q実績	18/12期 2Q実績	
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	62,758	100.0	63,125	100.0	+ 0.6
小型屋外作業機械	44,835	71.4	43,581	69.0	▲ 2.8
農業用管理機械	11,027	17.6	11,747	18.6	+ 6.5
一般産業用機械	5,679	9.1	6,678	10.6	+ 17.6
その他	1,215	1.9	1,117	1.8	▲ 8.1
営業利益	4,716	-	4,216	-	▲ 10.6
小型屋外作業機械	7,748	164.3	6,701	158.9	▲ 9.7
農業用管理機械	▲ 69	▲ 1.5	▲ 107	▲ 2.5	-
一般産業用機械	▲ 334	▲ 7.1	371	8.8	-
その他	303	6.4	182	4.3	▲ 40.0
全社共通費	▲ 2,932	-	▲ 2,932	-	-

(注) 18/12期より全ての子会社および関連会社を連結の範囲に含めております。なお、この連結範囲の変更による売上高および損益への影響は軽微です。

セグメント別地域別売上高実績



四半期別 業績推移



※17/12期は決算期を変更したため、9ヶ月決算となります。第3四半期は海外子会社のみ6ヶ月分の数値となります。

2. 2018年12月期 業績見通し

第10期（2017年12月期）は決算期変更により9ヶ月決算※1。
 第11期（2018年12月期）見通しは前年同一期間（2017年1月～12月）の業績と比較。

<10期と11期 決算短信等財務報告数値>

	2017年				2018年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
12月決算会社 (海外子会社)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
		第10期			第11期			
3月決算会社 (当社および国内子会社)		1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q	4Q

<前年同一期間と11期 比較参考用数値※2>

	2017年				2018年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
12月決算会社 (海外子会社)	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
		前年同一期間			第11期			
3月決算会社 (当社および国内子会社)	2017/3期 4Q	1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q	4Q

※1. 3月決算会社は4-12月の9ヶ月間、12月決算会社は1-12月の12ヶ月間となります。

2. 比較用に前年同一期間に調整した数値は監査法人による監査は受けておらず参考情報となります。

2018年12月期（通期） 予想



(百万円)	前年同一期間 実績 (未監査) 【12ヶ月】		18/12期 修正予想 【12ヶ月】 8月10日発表			18/12期 前回予想 【12ヶ月】 2月14日発表
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比 (%)	
売上高	116,915	100.0	118,000	100.0	+ 0.9	120,000
売上原価	83,665	71.6	84,000	71.2	+ 0.4	85,800
販管費	27,283	23.3	27,200	23.1	▲ 0.3	26,900
営業利益	5,967	5.1	6,800	+ 5.8	+ 14.0	7,300
経常利益	6,311	5.4	6,500	+ 5.5	+ 3.0	7,000
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,577	3.1	4,800	+ 4.1	+ 34.2	5,200

為替レート ※今後の想定為替レートは1ドル110円、1ユーロ130円。

1ドル	当社レート	112 円	109 円	▲ 2.5	110 円
	米国子会社 換算レート	112 円	109 円	▲ 2.5	110 円
1ユーロ		125 円	131 円	+ 4.8	130 円

- ✓ 売上高は、国内は好調を維持、海外は前半の天候不順の影響が大きく、全体としては前年同一期間並み。
- ✓ 損益面は、実質売上の増加に伴う利益増や未実現利益の影響などにより、増益見込。
- ✓ 前回（2月14日）予想から、売上、利益ともに下方修正。

(注) 18/12期より全ての子会社および関連会社を連結の範囲に含めております。なお、この連結範囲の変更による売上高および損益への影響は軽微です。

連結売上高の増減（予想）



(億円)

(凡例) 4 ⇒ 9
 ● 2018年2月14日 業績予想
 ● 2018年8月10日 業績予想修正

【国内】
 農機、産機の伸長やOPEの拡大を見込む。

4 ⇒ 9

【米州】
 主力の北米で産機は伸びるものの、OPEは天候不順の影響が尾を引き、前期ハリケーン特需の反動もあって減収を見込む。

8 ⇒ ▲ 7

【その他海外】
 中国は農機販売に加え、OPEも増収を見込む。

8 ⇒ 6

9 ⇒ 2

【欧州】
 ロシアが落ち込むものの、西欧が夏以降に天候の回復、新製品効果により増収見込。

1,200 ⇒ 1,180

1,169

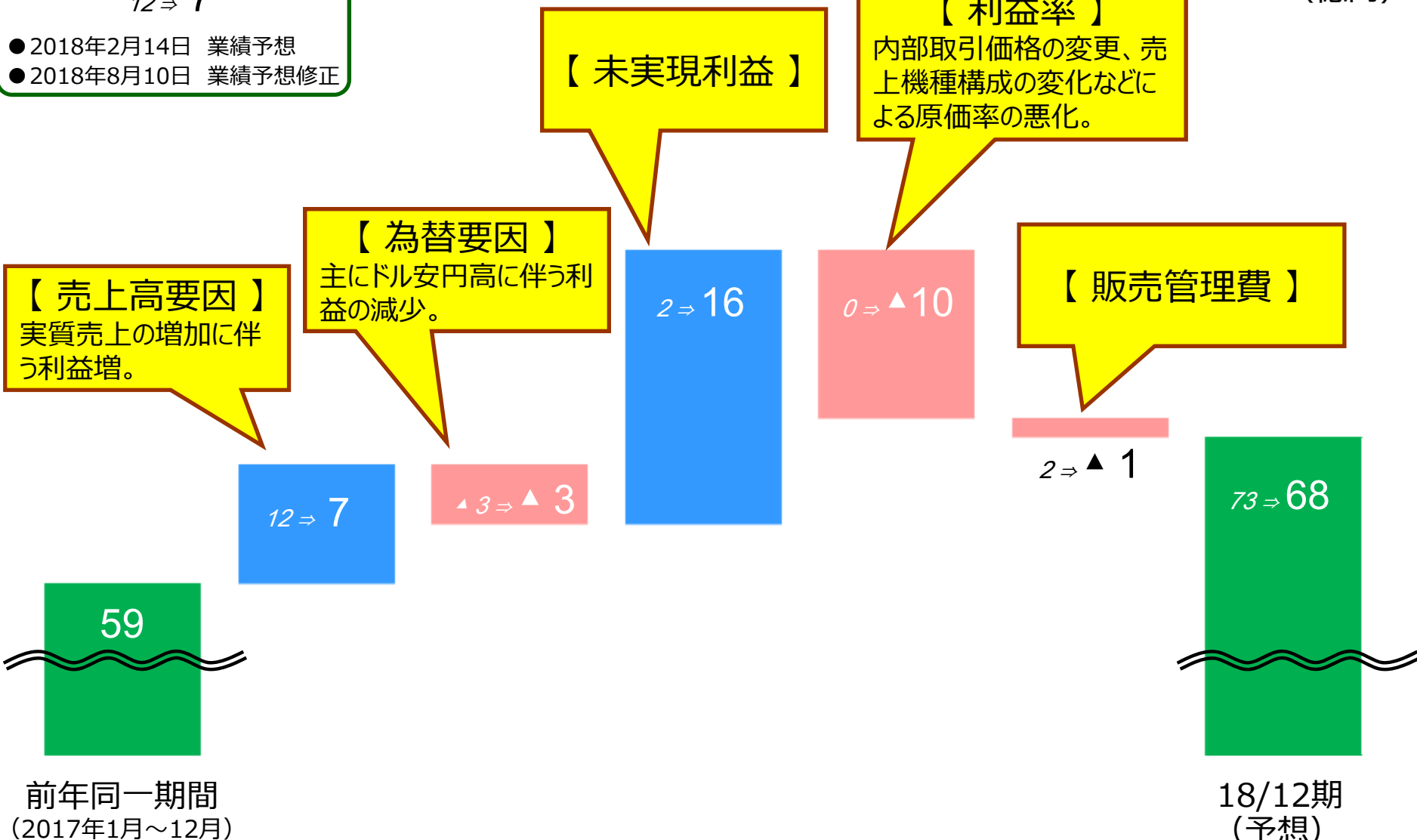
前年同一期間
 (2017年1月～12月)

18/12期
 (予想)

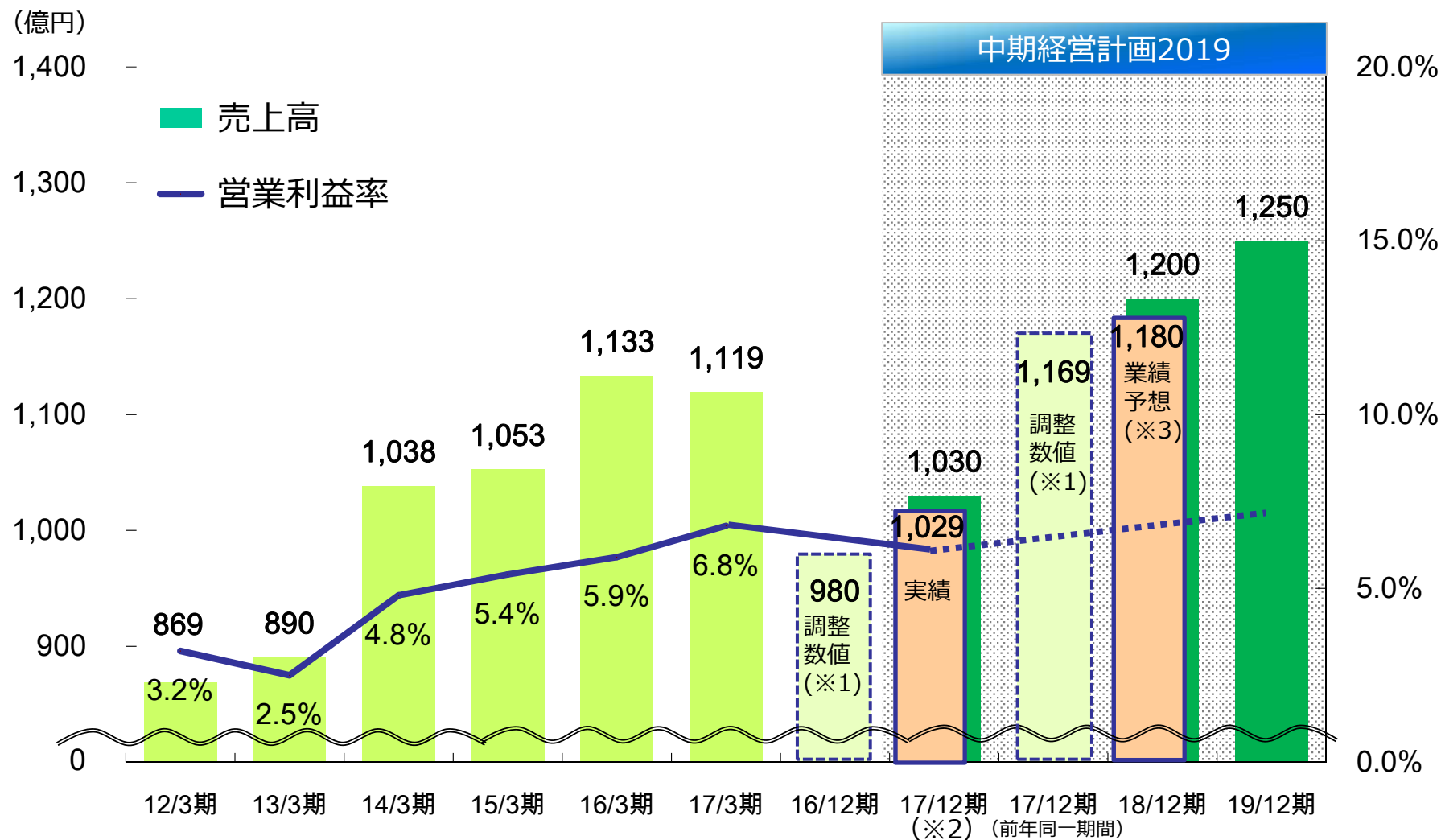
連結営業利益の増減（予想）

(億円)

(凡例) 12 ⇒ 7
 ● 2018年2月14日 業績予想
 ● 2018年8月10日 業績予想修正



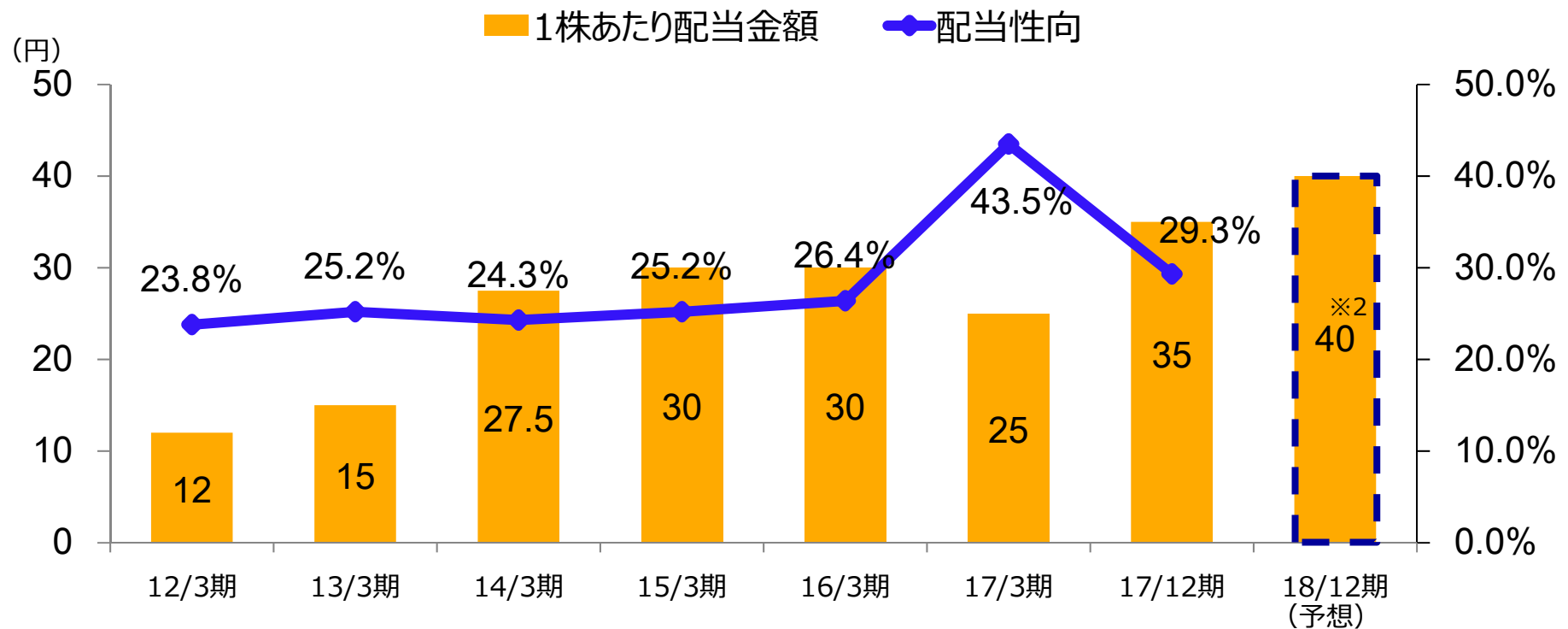
中期経営計画2019年次推移



- ※1. 16/12期および17/12期（前年同一期間）は比較参考用の調整数値であり、監査法人による監査は受けておりません。
- 2. 17/12期は決算期変更のため、9ヶ月決算となります。
- 3. 8月10日業績予想修正

株主還元

- 安定配当の継続
- 連結配当性向25%以上
- 今期は記念配当5円を加えた年間40円を予定



※1. 2015年10月1日付で株式分割を行っております。各期を比較しやすいように、株式分割考慮後の金額を記載しております。
 ※2. 2月14日付プレスリリース「2018年12月期 設立10周年記念配当に関するお知らせ」参照

添付資料


株式会社やまびこ 会社概要

『やまびこ』の概要



会 社 名	株式会社やまびこ (YAMABIKO CORPORATION)
設 立	2008年12月1日
本 社	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
売 上 高	102,948百万円 (2017年12月期連結)
資 本 金	6,000百万円
決 算 期	12月31日
連 結 子 会 社 数	12社※ (国内4社・海外8社／2017年12月末現在)
従 業 員 数	3,216名 (2017年12月末現在／連結)
上 場 市 場	東京証券取引所第一部
証 券 コ ー ド	6250
発 行 済 株 式 総 数	44,108,428株 (2017年12月末現在)
単 元 株 式 数	100株

※2018年12月期より、連結対象の範囲を変更したため、連結子会社数は17社に変更となっております (持分法適用関連会社1社含む)。

	 株式会社 共立	新ダイワ工業株式会社
設立(創業)	1947年(昭和22年)	1952年(昭和27年)
取扱ブランド	  国内の農林業機械 全世界の小型屋外作業機械	 全世界の小型屋外作業機械・一般産業用機械

《 資本提携以前の小型屋外作業機械 (OPE※) 市場の状況 》

- ★ 欧米 (特にアメリカ) の排出ガス規制への技術的対応
- ★ グローバルレベルでの業界再編・競争激化
- ★ 新興国企業の廉価攻勢
- ★ 顧客ニーズの多様化

《 資本提携・共同持株会社設立・合併までの経緯 》

2007年 5 月 業務・資本提携基本契約締結

2008年12月 共同持株会社『やまびこ』設立

2009年10月 『やまびこ』が 共立 および 新ダイワ工業 を吸収合併し事業会社化

＜社名の由来＞ 山の神様である「山彦」を社名に掲げ、自然と環境の育成、整備への貢献を理念に持つ会社姿勢の象徴とする。

※Outdoor Power Equipment

小型屋外作業機械 (OPE)



その他

農業用管理機械

一般産業用機械

(注)2017年12月期より、事業セグメント内容の一部を変更しております。

長年にわたる蓄積

技術力・生産能力・ネットワーク

合併シナジー顕在化

ラインナップ・販路の拡大



15ヶ国・115回におよぶ
サービススクールの実施
(2015/4~2017/3)

充実したテクニカル
サポート体制

米国EPA※認証数トップクラス
エンジン

固有の
研究・開発力

3つの事業

高い製品シェア
例) 小型屋外作業機械(OPE)
世界: 約10% / 日本: 30%以上

鉄めっき・放電加工

ラインナップ
販売ネットワークの拡大

独自の生産技術力
一貫生産能力

世界90ヶ国以上
2万8千店舗

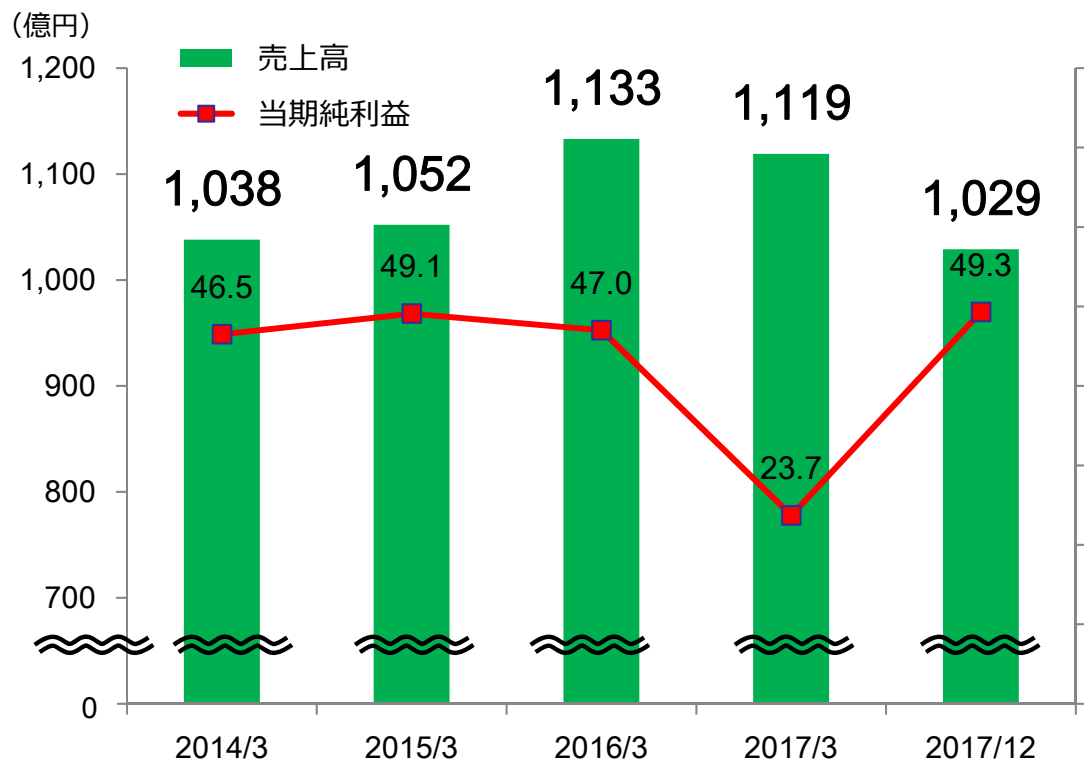
鋳造→熱処理
→機械加工→組立

“グローバル”での“高い競争力”を実現

※米国環境保護庁 当社調べ

為替の影響を受けながらも着実に業績向上 / 海外売上高が60%超

売上高推移

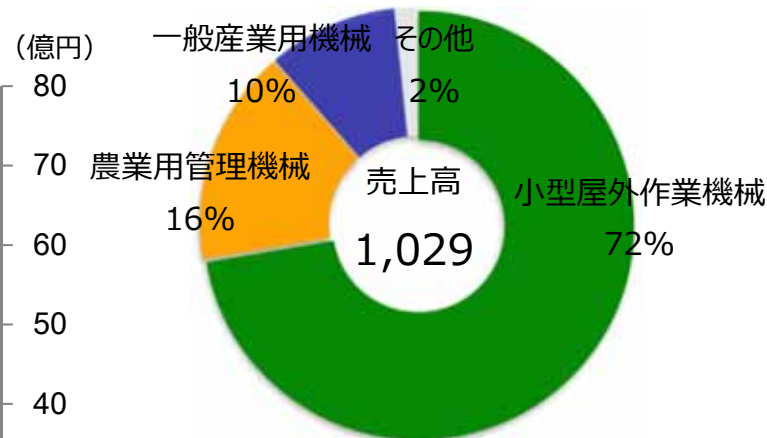


1ドル	100	110	121	109	112
1ユーロ	134	139	132	120	127

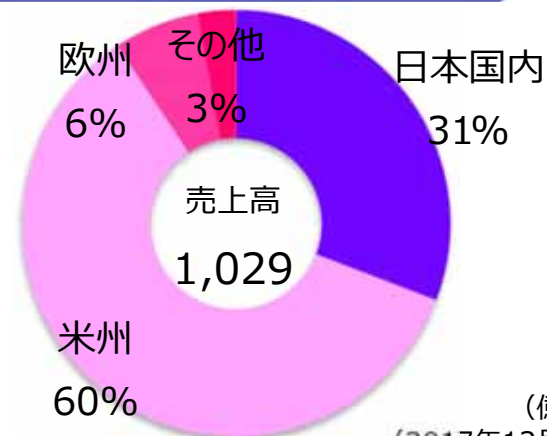
(ドルは米国子会社換算レート)

(注)2017年12月期は決算期変更のため、9ヶ月決算となります。

事業別売上高



地域別売上割合

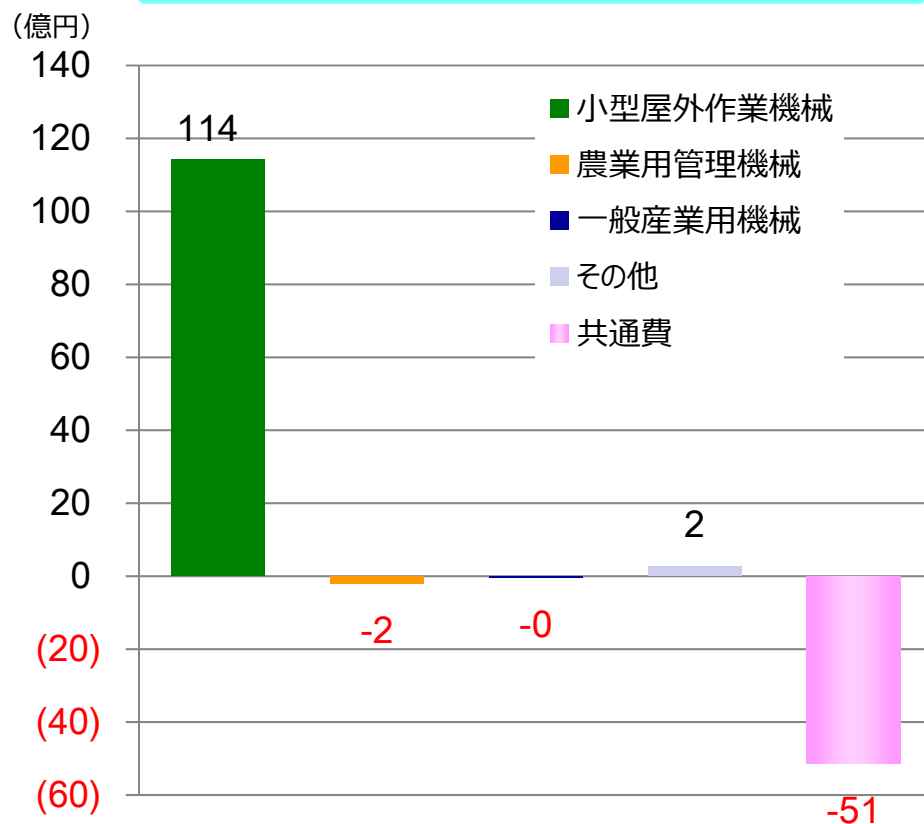


(億円)
(2017年12月期)

小型屋外作業機械（OPE）の収益性の高さが特長

営業利益構成

営業利益：62億円（2017年12月期）



主力製品（刈払機）・アクセサリ・スペアパーツの例



（注）2017年12月期決算期は変更のため、9ヶ月決算となります。

補足資料

セグメントの概要

セグメント（事業）	概要
小型屋外作業機械(OPE※)	「手で持つ」もしくは「背負って」使用する主に小型エンジンを搭載した機械の製造販売、欧州を中心に展開するロボット芝刈機の製造販売
農業用管理機械	国内における防除機械、北米における農作物収穫機械の製造販売
一般産業用機械	建設・土木・鉄工用機械の製造販売
その他	上記に含まれない商品など

主要製品

セグメント（事業）	主要製品
小型屋外作業機械(OPE※)	刈払機、チェンソー、パワーブロワ、ヘッジトリマー、ロボット芝刈機
農業用管理機械	防除機（動力噴霧機、スピードスプレーヤ、乗用管理機）、畦草刈機、大豆収穫機
一般産業用機械	発電機、溶接機、投光機、切断機、高圧洗浄機
その他	自動車用試作部品、除雪機

(注) 2017年12月期より、事業セグメント内容の一部を変更しております。

※Outdoor Power Equipment

事業	関連指標等
小型屋外作業機械(OPE)	北米：住宅着工件数 等 南米：穀物価格（大豆、トウモロコシ、コーヒー） 等 露：原油価格 等
農業用管理機械	米国：穀物価格（大豆、トウモロコシ） 等
一般産業用機械	北米：原油価格 等



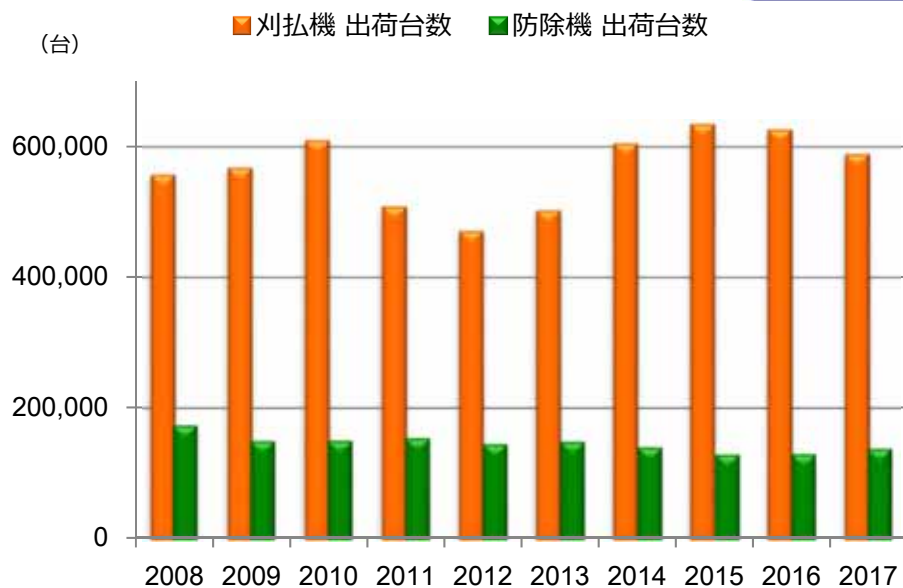
U.S.Census Bureau: New Residential Construction



IMF - Primary Commodity Prices

事業	関連指標等
小型屋外作業機械 (OPE)	(一社) 日本農業機械工業会出荷実績 (刈払機)、米価 等
農業用管理機械	(一社) 日本農業機械工業会出荷実績 (防除機)、米価 等
一般産業用機械	(一社) 日本陸用内燃機関協会 (携帯発電機)、(一社) 日本建設機械工業会出荷金額統計 (その他建設機械)、建設関連業等の動態調査報告、工作機械受注高 等

出荷実績



注：会員企業の入退会に伴い、2014年4月より報告会社数が変更。(防除機：7社→6社、刈払機：11社→12社)
(一社) 日本農業機械工業会出荷実績

(一社) 日本陸用内燃機関協会携帯発電機研究会集計 (3kVA以下)

当社の強み① 小型エンジンの開発力・生産力 (一貫生産体制)



チェンソー



刈払機



パワーブロワ



ヘッジトリマー

小型エンジンを搭載した小型屋外作業機械

高い開発力

長年にわたるノウハウの蓄積

顧客ニーズにきめ細かに対応可能

高性能・高耐久・高品質エンジン

小型・軽量・高出力
(手持機械に最適)

環境対応エンジン認証数
業界トップクラス

小型エンジンに必要な技術を保有

2ストローク

2ストローク
(層状)

4ストローク
(混合)

4ストローク
(分離)

当社の強み② 販売ネットワーク

2016年実績



世界 90ヶ国以上 / 2万8千店の販売ネットワーク

国内



動力噴霧機



乗用管理機



スピードスプレーヤ

海外



大豆収穫機



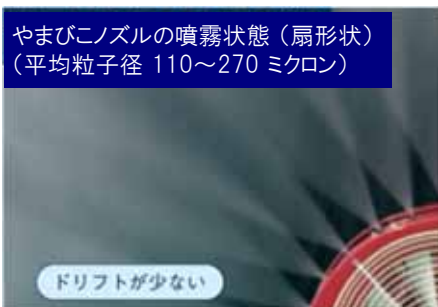
ジャガイモ収穫機

技術的な強み

国内： 共立の創業時の理念「食糧増産による社会貢献」を礎に長年にわたって蓄積してきた送風技術・噴霧技術・ポンプ技術。

海外： 収穫効率向上のための送風技術（特許）。機器の軽量化・小型化の技術。

やまびこノズルの噴霧状態（扇形状）
（平均粒子径 110～270 ミクロン）



ドリフトが少ない

農薬飛散を低減させる
やまびこ自社開発ノズル



効果的な農薬散布を
可能にした整流機構



エンジン溶接機



ディーゼルエンジン発電機



ガソリンエンジン発電機

技術的な強み

新ダイワ工業の創業時から蓄積されたA Cモータ開発技術を進化・発展させた発電機設計技術・電子制御技術・防音技術。



世界初の三相/単相 3線切替なし
同時出力可能 (米国特許・国内
特許取得済み)



防音技術

小型屋外作業機械 (OPE)

開発本部研究開発部

先行技術・要素技術の研究・開発および解析業務

開発本部開発第一部

製品の設計・開発

開発本部開発第二部

電動製品の設計・開発

開発本部実験部

製品の試験

エコー・インコーポレイテッド
(米国)

用途開発・製品実験

やまびこヨーロッパ・エス・エイ
(ベルギー)

ロボット芝刈機の設計開発

《開発の重点》

- グローバルレベルでのエンジン排出ガス規制対応
- 北アメリカでの燃料透過規制対応
- ヨーロッパでの騒音および振動規制対応
- 小型軽量化・低騒音・低燃費・耐久性向上・安全性向上

(注) 2017年12月期より、事業セグメント内容の一部を変更しております。

農業用管理機械

農業機械本部開発第一部・開発第二部

農業用管理機械などの設計・開発

クレイリー・インダストリーズ (米国)

チップーシュレッダー・大型農業機械などの開発

クレイリー・アグリカルチャル・ソリューションズ・エル・エル・シー (米国)

農業用排水管理設機械の開発

《開発の重点》

- ドリフト対策・適量散布・高性能化・操作性簡便化

一般産業用機械

産業機械本部開発部門
発電機、溶接機などの
設計開発

《開発の重点》

- 小型軽量化・低騒音
・高性能・高機能
・低燃費

電子・電気制御

電子制御研究所

電子・電気制御技術の研究

《研究の重点》

- 電子制御化

● 生産本部横須賀事業所

小型屋外作業機械の製造（鋳造・金属処理・機械加工・組立 等）

● 生産本部盛岡事業所

小型屋外作業機械の製造（機械加工・塗装・組立 等）

防除機の製造（板金・塗装・組立 等）

※ 防除機の搭載エンジンは他メーカーからの調達

● 生産本部広島事業所

小型屋外作業機械の製造（機械加工・組立等）

発電機・溶接機・電動工具の製造（組立 等）

※ 発電機等の搭載エンジンは他メーカーからの調達

● 生産関連子会社

追浜工業株式会社（横須賀市）：電装部品・歯車

双伸工業株式会社（青梅市）：樹脂部品

株式会社ニューテック（長野市）：鋳造部品

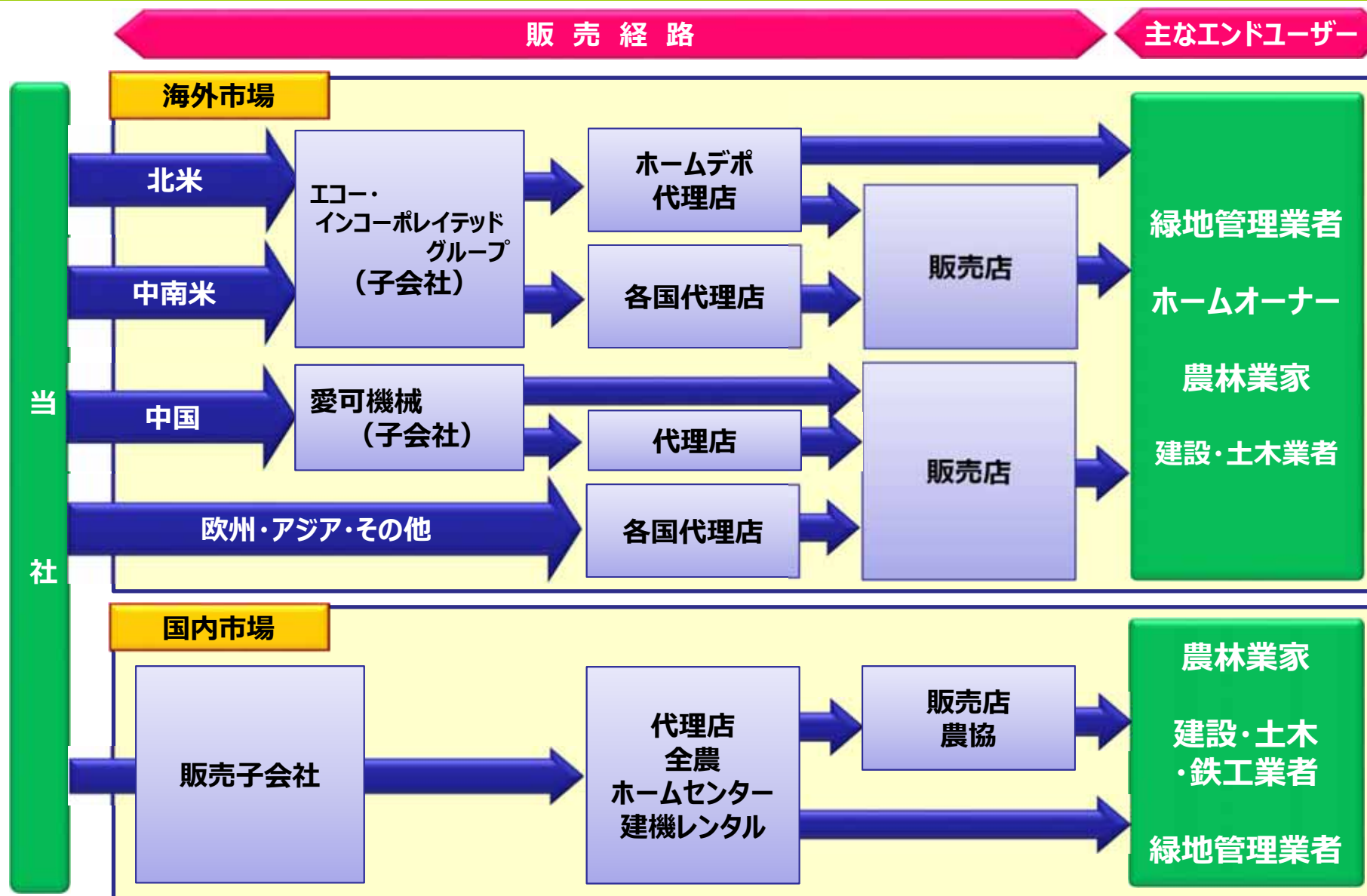
やまびこエンジニアリング株式会社（安芸高田市）：板金加工



- **エコー・インコーポレイテッド（アメリカ イリノイ州）**
小型屋外作業機械の製造 ※エンジンおよび一部部品は当社国内工場から支給
- **クレイリー・インダストリーズ（アメリカ ノースダコタ州）**
チップーシュレッダー・大型農業機械等の製造
- **クレイリー・アグリカルチャル・ソリューションズ・エル・エル・シー（アメリカ ミネソタ州）**
農業用排水管理設機械の製造
- **クイック・プロダクツ・インク（アメリカ アリゾナ州）**
当社製品のスペアパーツ等の製造
- **やまびこヨーロッパ・エス・エイ（ベルギー ブラバン・ワロン州）**
ロボット芝刈機の製造
- **愛可機械（深圳）有限公司（中華人民共和国 広東省）**
小型屋外作業機械の製造 ※エンジンおよび一部部品は当社国内工場から支給
- **蘇州山彦農機有限公司（中華人民共和国 江蘇省）**
農業用管理機械の製造 ※搭載用エンジンは他メーカーから調達、一部部品は当社国内工場から支給
- **新大華機械股份有限公司（台湾 台中市）**
小型屋外作業機械の部品仕入
- **やまびこベトナム（ベトナム トゥーザウモット市）**
一般産業用機械の部品製造



主な販売経路



販売店



主なエンドユーザー

海外市場



海外における販売店ではブランド別に製品を展示。販売員が、エンドユーザーのニーズを聞きながら対面販売。



ホームセンターにおいては各機種群別・価格別に製品を展示。エンドユーザーはニーズや予算およびCM等で得たイメージをもとに購入する。



海外市場

緑地管理業者

ホームオーナー

農林業者

建設・土木業者

国内市場



販売店や代理店と協力しながら展示会を実施し、実演や試乗を通じて販売。
販売店と共にエンドユーザーを訪問しユーザーのニーズを捉えたうえで、製品を販売。

国内市場

農林業家

建設・土木
・鉄工業者

緑地管理業者

主なグループ会社の状況（2018年6月1日現在）



		小型屋外作業機械 (OPE)	農業用管理機械	一般産業用機械
海外	生産 販売	エコー・インコーポレイテッド やまびこヨーロッパ・エス・エイ 愛可機械	クレイリー・インダストリーズ クレイリー・アグリカルチャル ・ソリューションズ・エル・エル・シー	エコー・インコーポレイテッド
	生産	クイック・プロダクツ・インク 新大華機械	蘇州山彦農機	やまびこベトナム
	販売	ゴールデンイーグル ディストリビューティング		
国内	販売	やまびこジャパン		
	生産	追浜工業 双伸工業		やまびこエンジニアリング

人と自然と 未来をつなぐ

私たちやまびこグループは、事業の発展を通じて、
世界中の自然環境と、共に歩む全ての人の
美しい未来をつくる、そんな企業を目指します。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

【お問い合わせ先】

株式会社やまびこ

総務部株式IR課

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2
TEL : 0428-32-6111 FAX : 0428-32-6143
e-mail : ir6250@yamabiko-corp.co.jp